

区分	スペック・試行	担当課	道路建設課
----	---------	-----	-------

事業区分	道路	取組項目	景観に配慮した防護柵の設置
現状・問題点・背景			
<p>車両用防護柵の設置は、1960年代から行われ現在まで着実に設置延長を延ばし、車両の路外への逸脱は年々減少するという効果が得られている。しかしながら、防護柵の形状および色彩は、景観への配慮の観点では必ずしも周辺と調和したものとなっていない等の印象を与えていることは否めない。</p>			
取組項目の内容			
<p>原則として、 地域の中心地区等で街の骨格を形成する道路 歴史的町並みが形成されている地域 山岳や景勝地が望め、眺望に優れた道路 海岸、湖沼など道路周辺に広がりがあり、道路空間と周辺の融和を図る道路 その他、地域にとって特別な意味のある道路</p> <p>を対象エリアとし、景観に配慮した防護柵の整備を行う。</p> <p>整備の考え方は、従来の防護柵の設置についての考え方を見直し、その必要性について代替策（緑石・植樹帯など）を含めて十分に検討することとし、防護柵を設置する場合には、防護柵自体が道路景観の中で目立たず、周辺景観に融和し、風景の一部として違和感なく存在し得るような形状・色彩の工夫といった景観的配慮を行うこととする。（具体案としては、『形状：ガードパイプ 色彩：ダークブラウン』の鋼製防護柵を基本とし、加えて、人との親和性にも配慮した木製防護柵による整備も積極的に検討している。）</p> <p>これらの基本理念を踏まえて、防護柵の統一性や連続性を図る地域や区間の単位と景観的な配慮が特に必要な地域・道路を選定とともに、それらの地域等における設置方針を示したマスタープランを現在策定中である。</p>			
取組項目の効果			
<p>周辺の景色や街並みと道路との調和を図り、景観への妨げを減少させることにより、地域に応じた美しい道路環境の実現、また、木製防護柵の整備による間伐材の積極的な利用により、環境負荷の低減が期待できる。</p>			
イメージ（コンセプト）			
<p>現在、以下の基本方針を盛り込んだマスタープランを策定中である。</p> <p>代替策を含め十分に設置の必要性を検討する。（緑石・植樹帯 等）</p> <p>周辺景観との調和を図り、シンプルで透過性の高い形状、色彩とする。</p> <p>連続する道路の施設として統一を図る。</p> <p>他の道路施設（照明灯等）との景観的調和を図る。</p> <p>歩行者との親和性を図る。 （ボルト・ナット等の突起を抑制、木製防護柵による整備 等）</p>			